

Q：文章問題から読み取った内容を，テープ図を利用して式につなげるにはどう指導すればよいのでしょうか。【2年】

A：求める数を□で表したテープ図から，□を求める演算を決定していけるようにします。

テープ図は，具体物や絵と違って，問題中の数量を線分に置き換えるので，ある程度抽象化しなければなりません。そこで，

具体物（絵）→数図ブロック（おはじき）→テープ図→線分図（幅のない）→式のように，徐々に移行して，次第に抽象化を進めていきます。

しかし，児童にとっては立式でつまづくことが多くみられます。特に問題文の中に「あわせて」があるとたし算，「のこりは」だとひき算，というように言葉で演算を決めてしまう場合があります。問題を具体的にイメージした上で式が作れるようにする必要があります。3つの具体例から考えてみましょう。

①「こうえんに ハトがなんわか いました。そのうち 5わが とんでいきました。のこりは 7わに なりました。ハトは はじめになんわ いたでしょう」

児童の中には，「のこり」という言葉から減法と考える場合があります。そこで，まずは「はじめにハトがなんわかいる」「5わがとんでいった」「7わがのこる」ことを押さえさせます。次に求める初めのハトの数を□わと考えると，テープ図の中に与えられた数値や求める□との関係が分かるように書き込み，整理していきます。

とんでいった5わ	のこった7わ
はじめの□わ	

初めの数から5わとんでいったので，□を求めるためには，「 $5 + 7 = 12$ ， $\square = 12$ 」となります。

②「はじめに かきが なんこか あって 6こ もらったので ぜんぶで13こに なりました。かきは，はじめに なんこ あったでしょう。」

問題から，「はじめに□こ」「6こもらった」「ぜんぶで13こ」という問題場面をテープ図の中に書きます。

はじめ□こ	6こもらった
ぜんぶで13こ	

テープ図で確認してから， $13 - 6 = \square$ の式をつくって考えます。答えを求めたあと，問題文に答えを当てはめて確認させるといいでしょう。

③「ケーキは 200円です。パンは ケーキより 70円 やすいそうです。パンは なん円でしょう。」

差の問題ですが，この場合もテープ図を活用できます。

$$200 - 70 = \square \quad \square = 130$$

となります。

(ケーキ)	200円	
(パン)	□円	70円